

様式第9（委託事業成果報告書）

委託事業成果報告書

平成26年3月26日

支出負担行為担当官

文部科学省初等中等教育局長 前川 喜平 殿

（受託者）住 所 沖縄県島尻郡八重瀬町字東風平 351 番地 2 階
名称及び NPO 法人 TOSS 沖縄
代表者名 太田輝昭 印

平成25年7月23日付け平成25年度「教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」に関する成果の報告書を委託契約書第10条の規定により、別添のとおり提出いたします。

現職教員の資質向上のための授業力向上支援事業 ～沖縄県、石垣市教育委員会と連携し、子どもの学力向上モデル事業～

事業成果

次の3点で今までにない成果があった。

- 1 法定研修で今まで実施されていない研修プログラム（授業の技量向上のための具体的な研修プログラム）を作成し、中級指導者が初級指導者へ研修を実施した。（教育委員会と連携し、教育委員会主導の初の試みである。）
- 2 途中の研修成果を、沖縄県教育委員会をはじめ、41市町村教育委員会に紙面で報告した。その結果、与那国町教育委員会が今回と同様の研修をしたという旨の連絡を受けた。
- 3 授業力向上のための、システムを導入（授業力向上ためのシステム ※これまでの研修では教員の力がつかないという反省があった）しての初の取組であった。（上級の指導者が中級の指導者を教え、中級指導者が初級の教員に指導した。全国の初のモデルとなる取組である）

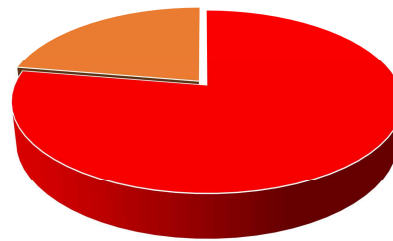
1 結果

(1) 全体

表1 参加者 教員資質向上主観的評価

	n
とてもつながる	66
まあまあつながる	19
あまりつながらない	0
全くつながらない	0
n=85	

表1 参加者 教員資質向上主観的評価



■ とてもつながる ■ まあまあつながる ■ あまりつながらない ■ 全くつながらない ■

4回の研修の結果、85名がアンケートに答えた。

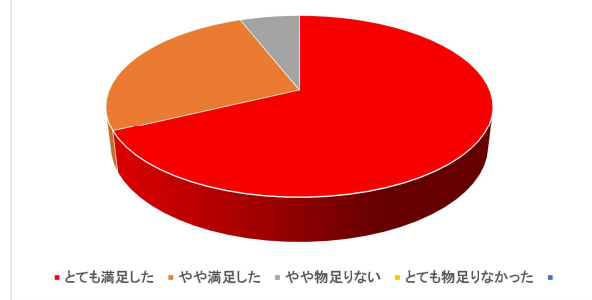
教員の資質向上に「とてもつながる」と回答した先生は、66名。「まあまあつながる」と回答した先生は19名。

参加者の100%が今回の研修に参加することで教員の資質向上ができていると考えていることが分かる。

表2 参加者 主観的研修満足度

	n
とても満足した	57
やや満足した	22
やや物足りない	5
とても物足りなかった	0
n=84	

表2 参加者 主観的研修満足度



4回の研修について、「とても満足した」と回答している先生が57名。「やや満足した」と回答している先生が22名。「やや物足りない」と回答した先生が5名。94%の先生が今回の研修に満足していることが分かる。通常の研修では、6割が満足すればよい研修と評価される。94%は極めて高い数値である。

(2) 11月16日 石垣市での現職教員の研修結果

表3 参加者 教員資質向上主観的評価

	n
とてもつながる	25
まあつながる	5
あまりつながらない	0
全くつながらない	0
n=30	

表3 教員資質向上主観的評価

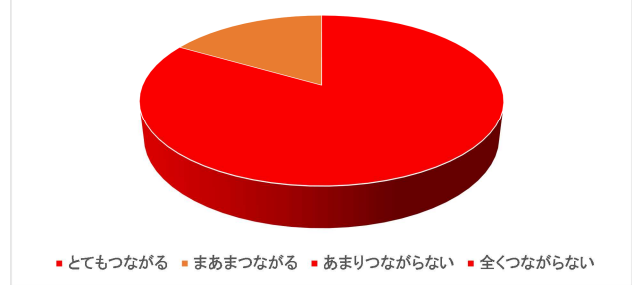
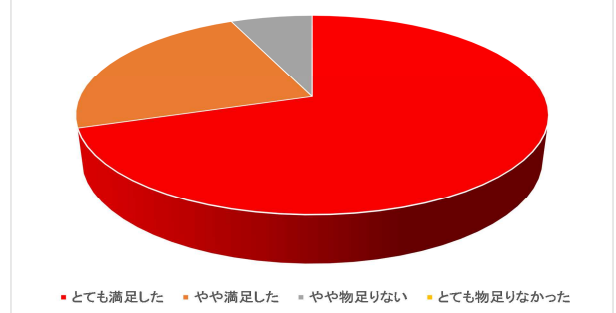


表4 参加者 主観的研修満足度

	n
とても満足した	21
やや満足した	7
やや物足りない	2
とても物足りなかった	0
n=30	

表4 主観的研修満足度

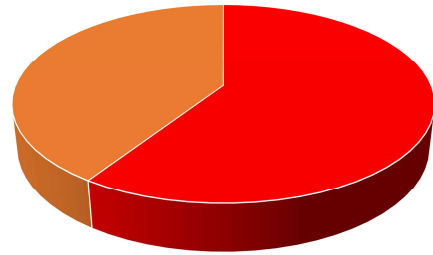


(3) 2月14日 石垣市 小学校での公開研修の結果

表5 参加者 教員資質向上主観的評価

	n
とてもつながる	16
まあまあつながる	11
あまりつながらない	0
全くつながらない	0

表5 参加者 教員資質向上主観的評価



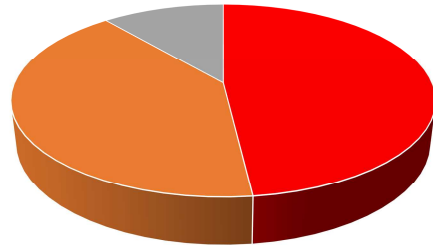
■ とてもつながる ■ まあまあつながる ■ あまりつながらない ■ 全くつながらない ■

表6 参加者 主観的研修満足度

	n
とても満足した	13
やや満足した	11
やや物足りない	3
とても物足りなかった	0

n=27

表6 参加者 主観的研修満足度



■ とても満足した ■ やや満足した ■ やや物足りない ■ とても物足りなかった ■

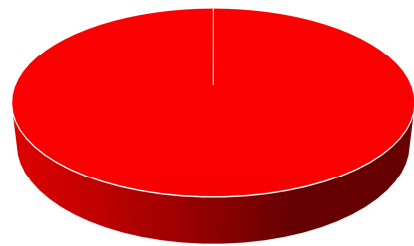
(4) 2月22日の県外講師招聘の研修

表7 参加者 教員資質向上主観的評価

	n
とてもつながる	6
まあまあつながる	0
あまりつながらない	0
全くつながらない	0

n=6

表7 参加者 教員資質向上主観的評価



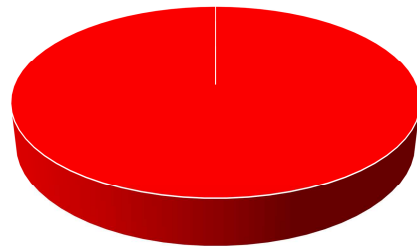
■ とてもつながる ■ まあまあつながる ■ あまりつながらない ■ 全くつながらない ■

表8 参加者 主観的研修満足度

	n
とても満足した	6
やや満足した	0
やや物足りない	0
とても物足りなかった	0

n=6

表8 参加者 主観的研修満足度



■ とても満足した ■ やや満足した ■ やや物足りない ■ とても物足りなかった ■

(5) 3月16日 石垣市での現職教員の研修結果

表9 参加者 教員資質向上主観的評価

	n
とてもつながる	19
まあつながる	3
あまりつながらない	0
全くつながらない	0
n=22	

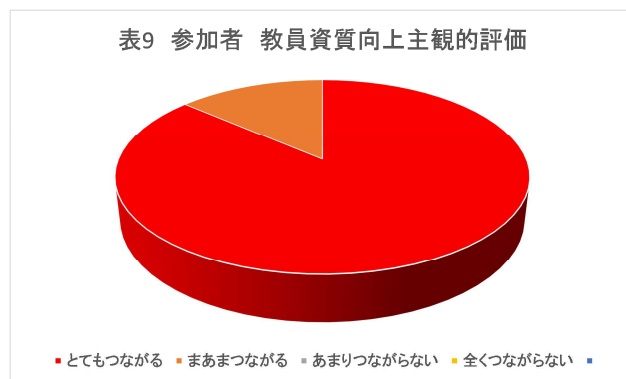
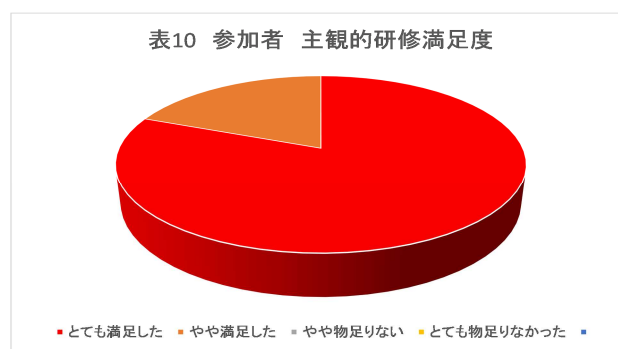


表10 参加者 主観的研修満足度

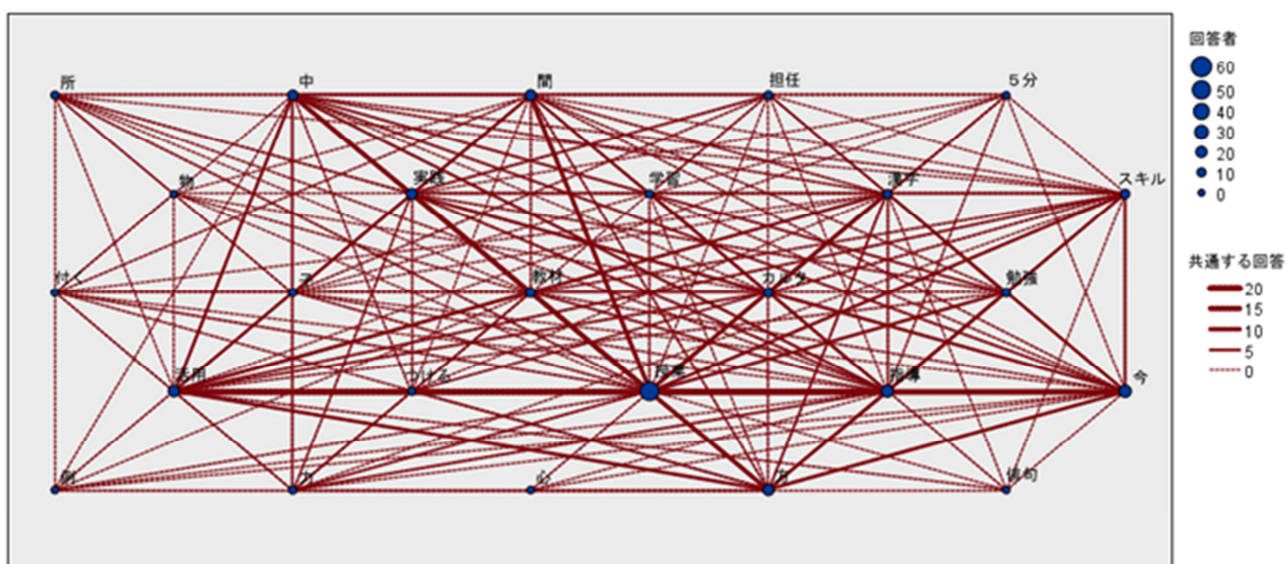
	n
とても満足した	17
やや満足した	4
やや物足りない	0
とても物足りなかった	0
n=21	



(6) 参加者アンケートをテキストマイニングソフトで分析

カテゴリ	棒グラフ	選択%	回答者	合計%
授業		62.2	51	62.2
今		29.3	24	29.3
指導		28.0	23	28.0
活用		23.2	19	23.2
実践		22.0	18	22.0
方		22.0	18	22.0
間		20.7	17	20.7
中		18.3	15	18.3
教材		15.9	13	15.9
カルタ		13.4	11	13.4
スキル		12.2	10	12.2
勉強		11.0	9	11.0
漢字		11.0	9	11.0
担任		8.5	7	8.5
子		7.3	6	7.3
力		7.3	6	7.3
学習		7.3	6	7.3
つける		7.3	6	7.3
所		6.1	5	6.1
付く		4.9	4	4.9
心		3.7	3	3.7
例		3.7	3	3.7
5分		2.4	2	2.4
俳句		2.4	2	2.4
物		2.4	2	2.4

「授業」の категориを記載した参加者は、全体の 62.2%おり、51 名がアンケートに記載していた。「今」の категориを記載した参加者は、全体の 29.2%おり、24 名が記載した。「指導」のの категориを記載した参加者は、全体の 28.0%おり、23 名が記載した。「活用」の категориを記載した参加者は、全体の 23.2%おり、23 名が記載した。「実践」の категориを記載した参加者は、全体の 22.%おり、18 名が記載した。このことは、「授業」についての学び、学んだことを今すぐに「指導」に活かし、活用、実践したいという参加者の意欲がうかがえる。また、次の「方」「間」の категориでは、授業のテンポ・リズムである「間」の重要性を感じ取っている。授業の「テンポ、リズム」等、講師の研ぎ澄まされた時間感覚を学びとっている。のんびんだらりとした時間経過では力がかからないことを感じとっている。次に、「教材」「カルタ」「スキル」等が続く。授業を行う上での「教材」の活用をどのように行うかは実践において重要であることを感じ取っている。学力向上において、効果的な指導に有効な「教材」が必要であることを学んでいる。子どもが集中する教材選択も教師の力である。その結果として、子どもの力をつけ、学習に活かしていくという「子」「学習」「力」「つける」と категориが続く。本研修会でより具体的な実践を学んでいることが分かる。マイナスの категориが出てこないことも研修が効果的であったことが伺える。



青丸は、回答者の数を示し、茶色の傍線は、カテゴリ間の結びつきの強さと共通する回答であったことを表す。つまり、青丸が大きければ回答者が多かったこと、茶色の傍線が太ければ、共通する回答が多かったことを表す。このグラフからも「授業」「指導」「今」「活用」「教材」「実践」の回答数と結びつきが強いことが分かる。参加者は、研修を通して、強く「授業」「活用」「教材」「指導」「実践」を意識している。このことは、本研修で学んだことを現場に持ち帰って実践していく強い気持ちが伺える。

参加者の感想を一部掲載する。

・たくさんの授業実践が聞けて本当に勉強になりました。特に漢字の指導法について有効な方法が知りたかったので、スキルを活用しての指導・宿題の出し方が学べてよかったです。電子黒板も、教室に入ったものの画像を写すだけではテレビと変わらないと思って、活用に困っていましたが、ネット環境が整っていないでも使える教材を教えていただいたので今後たくさん活用していこうと思

います。また、様々なカルタも紹介していただきました。自作できそうなもの、また今子どもたちに覚えてもらいたいものを作ってみたいと思います。

・音読のやり方が毎回同じようなパターンで何か良いものはないかと考えたりしていたが、今回のセミナーでの音読は、授業で楽しくできるものばかりでよかった。また、電子黒板での使える授業コンテンツなどの紹介もあったので、授業に取り入れたりして、子どもたちのやる気を出す授業ができるなと思った。また今後もこのようなセミナーがあれば参加したいです。ありがとうございます。

・テンポよく、わかりやすい内容。自分の教室での実践がイメージできるような内容でとても勉強になりました。初心にかえて、4月からの新たな子ども達とまた1年を創っていききたいなと思いました。

現在、極小規模校で3年間勤務しており、4月から久しぶりに中規模校での勤務になり、学級経営について再確認したくて参加しました。具体的な内容だったので、すぐ実践にいかせそうです。良かったです。

・学級経営をしていて困っていること、気になっていることなど、たくさん教えていただきました。教師も

子ども達も高いハードルではなく、わかりやすく毎日続けられるもののヒントが得られました。4月からさっそく、やってみたいと思うことがたくさんあってとても勉強になりました。先生方の説明には、模擬体験もあって、自分がやってみて楽しく安心してできました。自然と笑顔になれる学級作りをしてみたいです。

・音読の仕方や発問等で多くのことが学べ、刺激になりました。学級の子ども達は、「先生はどんなお話をするのだろうか？」と目を輝かせていました！ 稲嶺先生の魅力、そして技術が学べる貴重な時間となりました。また、一つ一つの授業で押さえるべき、ポイントが明確でとても解りやすかったです。特に問い対して

正対させることや、仕組み（システム構築）を整えることの大切さを学びました。稲嶺先生、今日は本当にありがとうございました。

・今後のスキルアップにつながるような技術を学ぶことができました。また音読について、子ども達はどうしてもあきてくるが、今日学んだ事を生かし、アップテンポで進めていこうと思いました。以前にTOS Sのセミナー（産業センターで）に何度か参加したことがあります。その時も多くの事を学び、学級経営に生かしています。ありがとうございます。今研修でも多くの事を教えてくださり、ありがとうございます。

・カルタ、フラッシュ、等、リズム、テンポがとても良く、児童もスピードにのって楽しく授業を受けているのを見て、児童をのせるリズム、テンポ、スピードの大切さを知りました。点数をつけ、どこが違うのか、真剣に考えさせ、競わせる等、児童が集中する方法がわかり、次の授業から取り入れていきたいです。ありがとうございました。

・カルタ、辞書引き、フラッシュカード、音読、すべて、テンポ、リズムがよく、子どもたちが授業を楽しく参加していける授業を目指したいです。そのために、少しの工夫を継続できるように、いろんなアンテナをはって情報を取り入れ、努力したいです。子どもたちが、進んで行えるシステム化をして、自主的に学び合える環境を作りたいです。

・リズム、テンポが速いことにおどろいた。ゆっくりでは子どもはあきてしまうので、稲嶺先生のテンポだと子どもたちが必死についてこうとしているのがわかった。自分の学級でも実践したい。また、「問いに正対させる」ということが、今後、いろいろな問題を解く上でとても大切だということがわかった。それは普段の会話等の中でも、教師が意識することによって自然と子どもがきたえられていくということがわかり、自分自身が、しっかり意識しようと思った。今日はほんとうにありがとうございました！

2 研修プログラム

(1) 学力を向上させる授業の組み立て方

①授業の中の5分を効果的に使い、漢字指導を行う。

ステップ1 指書き「目をつぶって3回かけるまで」行う。

ステップ2 なぞり書き「1ミリもずれないように」

ステップ3 写し書き「コピーしたように」。

②10秒で辞書を引かせる。

ステップ1 教師が語彙を出す。

ステップ2 子どもが辞書を引く。

ステップ3 10番目に立った子に読ませる。

③教科書の音読のバリエーション

範読、追い読み、一斉読み、一文交代読み（教師対全員）、一文交代読み（男子対女子）、一文交代読み（号車、列ごと）、リレー読み（一人一文で交代）、ペア読み（一文交代）、ペア読み（一斉）、グループ読み（一斉）、グループ読み（一文交代）、指名なし音読、間違い直し読み、ダウト読み、時間制限読み、なぞり読み、文節交代読み（教師対全員）、文節交代読み（子ども対子ども）、段落交代読み、一行交代読み、部分限定読み、タケノコ読み、BGM読み、手拍子読み、微音読、高速音読、逆さ読み、薄め読み、暗唱、自力解決読み

④ 頭を使う発問

（2）学力向上のための教師の微細技術

①学力向上のための予備テストのさせ方

採点、得点記入、直しまでを45分で行う。

ステップ1 テストを行う。

ステップ2 間違っていないか、2度目の確かめをさせる。

ステップ3 2度の確かめを終えた人から教師に持ってこさせる。

ステップ4 子どもの前で〇つけをする。

ステップ5 得点を記入する。

ステップ6 答えを渡す。

ステップ7 席にもどらせ、間違い直しをさせる。

ステップ8 答えの裏面の課題をさせる。または、読書をさせる。

②漢字の宿題のさせ方

ステップ1 「ひらがな」のページを見て、漢字をノートに書く。（答えを隠して）

ステップ2 答えを見て、丸付けをする。

ステップ3 できなかった漢字を、自分で練習する。覚えるまで。

ステップ4 見ないで書けるか、もう一度やってみる。つまり、読み仮名だけをノートに書いて、答えを隠して、漢字を書いてみる。

③ 日記を日常的に書かせる。

（3）国語の学力を向上させる教材を使う

①フラッシュカード

コツ1 カードを全員が見える位置でめくる。

コツ2 カードは後ろから前にめくる。（紙芝居とは逆）

コツ3 2回→1回→0回の原則を使う。

コツ4 学級の実態で枚数を決める。

コツ5 めくりやすくするために、親指がかかるところに「セロハンテープ」をつける。または、「指サック」をつける。

コツ6 フラッシュカードのめくり方をいろんなバリエーションにする。

②五色百人一首、カルタの最初の指導

手順1 2人で机を合わせ20枚の札を10枚ずつに分ける。互いに横5枚、縦2段に自分から読める向きに並べる。



手順2 教師が読み札を見ながら、一首だけを詠みあげる。

手順3 1枚読んだところで、どの組も取れたかどうか確認をする。

手順4 速く札に触った方が取れるということを教える。同時の時は、じゃんけんとする。

手順5 一回試合をして、一つのルールを教える。

多くのルールを一度に教えない。特に発達障害の子どもの頭に入らない。混乱してしまう。楽しませながら、一つ一つのルールを身に付けさせていく。

手順6 お手つきについて教える。

手順7 勝敗について教える。

③ 発達障害の子どももシーンと集中して取り組む教材の使用

うつし丸くん

④ 言語力育成の教材の使用

話す聞くスキル

⑤ インターネットでのコンテンツの使用

(4) 4月の学級開き、授業開きの3日間のシステム

① 1時間目で1年の方針を述べる。

② 1年間ぶれない「学習のルール」の確立

ノートの書かせ方、ノートの提出の仕方、発表の仕方、筆箱の中身、学習に必要なもの、学習のきまり

③ 1日目から子どもを褒める

「子どもの名前を覚える」「事実でほめる」「全員をほめる」「力つよくほめる」

「弱い刺激でほめる」

④ ミニレクで子ども同士の仲良くすることは学力向上に欠かせない

⑤ 「学習の語り」

3 授業力向上のシステム

研修システムの流れ（モデル）

